

図書だより

NO.1 倉吉東高校図書委員会 2016.5.26

教育実習生の先生方のお薦めの本

教育実習中の先生方から、生徒の皆さんへのお薦めの本を紹介していただきました。先生方が高校生の時に読まれた本もあり、共感できる部分がたくさんあるかもしれません。

図書館にも何冊か揃えていますので、

ぜひ読みに来てください。



『きいろいゾウ』 西 加奈子 著 (小学館文庫 2006年)



夫の名前は無辜歩（むこ・あゆむ）、妻の名前は妻利愛子（つまり・あいこ）。お互いを「ムコさん」「ツマ」と呼び合う若夫婦が、九州の片田舎にやってきたところから物語は始まります。

この作品は、登場人物のキャラクターが特徴的でおもしろいです！

ほのぼのとした夫婦の日常、優しくあたたかいそんなのほほーんとしたイメージから、後半は怒涛のように引き込まれていきます。

2013年には、宮崎あおいさん、向井理さん主演で映画化もされた話なので、小説と映画どちらが先でもいいので、ぜひ読んでみてください。

(保健体育 田中 朱璃 先生)

『心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣』 長谷部 誠 著 (幻冬舎 2011年)

この本は、僕が高校生の時に出版された本です。著者の長谷部誠は、サッカー日本代表で長らくキャプテンを務める選手です。高校の時、サッカー部に所属していて好きな選手だったので読んでみました。比較的読みやすい内容、構成になっています。

タイトルの通り「心を整える」をキーワードに、最高のパフォーマンスを発揮するためにしている習慣が具体的なエピソードと共に書かれています。プレーしている時からオフの時間に至るまでのことが書かれているので、自分の心に響く言葉がどこかにあります。何気ないことですが、その何気ない言葉、行動が大切だということを気づかせてくれます。例えば、「頑張っている人の姿を目に焼き付ける」「運とは口説くもの」「遅刻が努力を無駄にする」などです。彼の習慣を真似しなくていいので、まずは彼の仕事に取り組む姿勢、熱意を感じ取ってみてください。この本が、様々な人の働き方を知るきっかけとなってもらえれば幸いです。

(地歴・公民 日置 健太郎 先生)



『知的複眼思考法 誰でも持っている想像力のスイッチ』

荻谷 剛彦 著 (講談社 1996年)

① (クリスマスに幼馴染みの男の子がこの本をプレゼントしてくれました。もらってから難しそうだからと思って、本棚に置きっぱなしにしていたが・・・)

私は先生方からよく素直だといわれます。分からないことは積極的に尋ね、いわれたこと

を常に信じて疑わない。小さいころから、このように生きてきました。しかし、自分の考えを多く求められる大学の場で、自分の考えが言えないことに気づき、「考えることから逃げていた」のだと分かり自分を変えたくてこの本を手にとりました。

②常識にとらわれた単眼思考を行ってはいは、いつまでたっても「自分の力で考える」ことはできない。自分自身の視点からものごとを多角的に捉えて考えぬく__それが複眼思考法。私と同じ悩みを感じている人、プレコンで新しい視点を見つけない人に助けになる内容が書かれているのでぜひ手にとって下さい。

(英語 鈴木 慧 先生)

『何者』 朝井 リョウ 著 (新潮社 2012年)



「何者」は朝井リョウさんという作家の小説で、2012年の直木賞受賞作でもあります。5人の大学生が就職活動に取り組む様子を題材とした一冊ですが、驚きなのはその文章の進め方です。5人の大学生の「twitter」のツイートが文章にはさんで載せられているのです。「twitter」は今や世界中の人が利用する SNS サービスですが、そのような新しい繋がりにより、今までなら知る由もなかった人の内面を知る場面も出てきました。この小説の5人の大学生は表面的には仲良くするものだが、いかに心の内を見せずに就職活動に取り組んでいて、その内面的な感情が「ツイート」を通して知ることができるような文章構成となっています。SNS が広がりを見せる今、どのように SNS と付き合っていくべきか考えさせられた一冊です。高校生に就職活動は馴染みがないかもしれませんが、作家の朝井リョウさんは26歳と若く、今風の文章で書かれているので読みやすいと思います。(大学3年生のとき書店で見つけて読みました。)

(理科 迫田 晃祐 先生)

『人を動かす 新装版』 デール=カーネギー 著 (創元社 1999年 初版は1937年!! 発売から70年以上のベストセラーです)

私は、『人を動かす』という本を学生の皆さんに読んでほしいです。理由が3点あります。1点目は、人とのコミュニケーションをどのようにとると人間関係がうまくいくかということを知ることができる本だからです。グローバル化が進む中、“コミュニケーション”は1つのキーワードであり、このことを的確に伝えてくれる本です。2点目は、本の読みやすさです。ポイント1点1点に対し、具体的な例が提示され、頭にスッと入ってくる構成になっています。3点目は、自分の変化に気付くことができるからです。いくつかのポイントを日々の生活の中で意識することで、自分のちょっとした変化に気付くことができます。日々成長。コミュニケーションが重視される社会を共に生きましょう!



(英語 西本 修平 先生)

『武士道シックスティーン』 蒼田 哲也 著 (講談社 2009年)



読みたい本は評判やタイトル、著者を見て決めています。この本はタイトルを見てあらすじを読み、面白そうだと思いこの本を選びました。

この物語は、宮本武蔵を心の師とし、全中準優勝の実力をもつ香織は中学最後の大会で無名の選手である早苗に負けてしまう。勝ち負けに拘る香織と剣道を楽しむ早苗、という違う考えをもつ二人が同じ高校に進学して再会する…。そんな二人の青春を描いた作品です。なぜこの本を紹介したかということ、二人の主人公と年齢が近い今、読むことによって共感できることが多いのではないかと思ったからです。高校生の心情や父親との関係が描かれており、面白い作品です。

(数学 新井 大裕 先生)